TEC branch

vol. 70 本に書かれているようで書かれていない、日常のふとした疑問におこたえします Nov2016

こうすれば、早く正確にすすむ構造計算

～構造計算事務所への依頼方法のノウハウ～

戸建て住宅の着工棟数は年々減少傾向にありますが、逆に構造計算をしている建物は増えています。地震や台風などの環境の変化や税制優遇や保険割引などの政策がその要因と思われます。今後もその傾向は変わらず増え続けることでしょう。

さて、その構造計算。住宅会社や工務店などでは社内で行っているところもありますが、多くが構造計算事務所に依頼しているようです。専門的な知識が必要で、審査機関とのやり取りが煩雑なことが理由にあるようです。

そして、外注する際に一番困ることは納期ではないでしょうか？

２～３週間かかるのは当たり前で１カ月を超えることもあるようです。「作業自体はせいぜい２～３日なのに何故そんなに日にちがかかるのだろうか？」と思いますよね。でも実は、それにはちゃんと理由があるのです。では、どうすれば、早く正確に納品してもらえるのでしょう。

1. 不足図書と図面間の不整合、書き込み不足

遅くなる一番の原因はこれです。担当者はまず、図書が全て揃っているか、図面間での食い違いがないか、計算に必要な情報は全て書いてあるか等を確認します。「矩計図は後で送りますから進めておいてください」と言われても、部分的に始めることは出来ません。不備の場合、依頼者に連絡をしますが、その時点でこの物件は一旦保留になってしまいます。そして全てが揃ってからスタートしますので、その分、納期が遅れてしまいます。

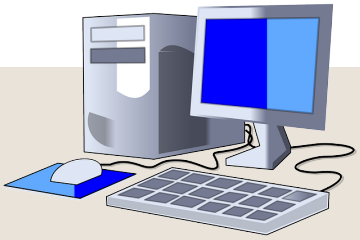
2. 成り立たなかった場合の方針

計算作業に入ると「耐力壁が足りません」、「梁が大きくなってしまいます」など、NG 部分の解決方法の相談がでてきます。それを依頼者に問合せしている間は作業がストップしてしまい、１～２日が過ぎてしまうこともあります。できれば、予想できる問題点の次善策を担当者に伝えておくことが得策です。例えば「耐力壁が足りなければ、キッチン脇と洗面室に増やせる」、「梁せいは 300mm まで OK で、それ以上の場合は集成材に変更」などです。こうしておけば担当者は、中断することなく計算を進めることができますね。

3. プラン変更が必要となった場合の施主確認

一番長く日にちがかかる原因は、施主に確認しなければならない変更が発生した場合です。施主にとって一生に一度の高い買い物なので、簡単に結論を出して頂けず、納期が延びるのは仕方がないことかもしれません。

しかし、「施主に確認しなければならないレベルの変更」は、構造計算を依頼をする前から、ある程度想像がつくことが多いですよね。構造を考慮したプランニングは勿論ですが、怪しいと思ったら構造計算事務所に事前相談することが賢明です。予め、施主に変更の可能性を伝えておくこともできます。



4. 依頼前の事前相談

仕事を請ける構造計算事務所としては、依頼を頂いて初めてその物件の図面を見るより、事前にどのようなプランの依頼なのか、概要を把握しておきたいものです。また、担当者の予定組みもできますし、事前チェックもできるので問題点を潰しておくことも可能になります。特にスキップフロアや大型吹抜などの特殊物件は必要です。

構造計算書は、当然のことですが、規格ではなく受注生産（受注計算）で、一つ一つ物件により異なります。一番大切なのは依頼者と担当者の意志疎通で、最初の段階で気になることは些細なことでも話しておいた方がよいでしょう。また、言った言わないということが起こらないよう、電話で話した内容を、メールで再確認することも大切です。

TEC branch は HP にて連載中です。

答えてほしい疑問などをお寄せ下さい！

次回は、構造計算の外注化のススメ！！！

東昭エンジニアリング株式会社
〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-20-8 BENEX S-3ビル2階
TEL：045-534-7500　FAX：045-534-7501
URL：http://www.tosho-engineering.co.jp

構造計算で 建築に 新しい風を!
TOSHO ENGINEERING